



# 鳩 ひと夏のホームステイ

島崎弘幸

2022年7月、三連休の初日は雨だった。11階建て鉄筋長屋の7階に住む男は、雨を見ながら、しばらくベランダの掃除をしていないと思った。テレビの前に座ったまま、飯時に茶碗と箸を持つ以外に何もしない男が、何を始めたのかと驚く女房殿を手で制して、バケツで水を何度もベランダに運びぶちまいた。竹の先にブラシの付いた棒を前後に動かして、床を洗い流した。鉄筋長屋では、雨の日でなければ、ベランダの大掃除はできない。

言うまでもないが、天気の良い日は、階下で布団や洗濯物を干している。ベランダを隅から隅まで洗い流したあと、散らかした物もすべて片づけ、横になっていた鉄製の台車（荷物を運ぶ家庭用の台車）も壁際に寄せて立てかけた。途中で、こんな掃除を始めなければ良かった・・・と、何度も反省したが、何とかベランダがきれいになった。

それから3、4日が過ぎたある日、女房殿が、ベランダからガラス戸を少し開け、テレビの前の男を小さい声で呼んだ。何事かと立ち上がると、ベランダで、鳩が巣を作っているという。男は文字通り、ハトが豆鉄砲を食らったような顔でベランダに出た。先日、ベランダの掃除をした際に、壁に立てかけた台車と壁の間（三角形の底辺）に、20cmほどの隙間があって、そこに野生の伝書鳩が一羽入って、すました顔で男を見返していた。男の生涯で、鳩と一対一で見つめあったのはこの時が初めてだった。鳩の顔に恐怖や、微笑みはなかったが、丸いきれいな目をしていると思った。手を伸ばせは届くほど近づいているのに、飛び去る様子はない。春ごろから、二羽の鳩が時々ベランダに来ていたが、糞を落とすので、鳩の姿を見るたびに追い払っていた。いつもは男の姿を見る前に、気配を感じるだけで飛び去っていたのに、この日は逃げなかった。子供（卵）のために、懸命に恐怖に耐えて、男と対峙している姿に少し感動を覚えた。そんなけなげな姿を見せられた後では、その場で台車を取り上げて、鳩を追い払うことはできなかった。少し様子を見ようと、鳩に変わって、女房殿にお願いした。

この鉄筋長屋では、過去に、野良猫にエサを与える人が出て、子猫が増えたことがある。その後、野良猫や、鳩にエサをやることを禁止する規則を作った。その後は、いつの間にか野良猫は全く見なくなったが、鳩はそのまま住み着いて、ベランダに飛んでくる。迷惑なのは、来ると必ず糞を落とすことで、あちらのベランダで追われたらこちらへ、こちらで追い払ったらあちらへと、嫌われながらも、鉄筋長屋とその周辺を生活圏にしている。それは知っていたが、男のベランダに、それも掃除をした直後に、立てかけた台車と壁のわずかな隙間に巣を作るとは、まったく思

いがけなかった。この鳩の夫婦と男は初対面ではない。彼らはとても賢くて、脅しても、脅しても、すぐに慣れて、平気で障害物を乗り越えてベランダに入って来た。鉢植えの土や植物に興味があるのかと思っていたが、巣作りの場所を探していたとは気づかなかった。

それにしても、台車を壁に立てかけたのは、ほんの数日前、鳩夫婦の決断の速さに驚いた。何度も飛来したのは、巣作りの場所を探すだけでなく、大家となる人間夫婦の性格も調査していたのかも知れない。そして鳩夫妻の思惑通り、子育てが出来るようになったのだから、人間を見る目も確かで、決断力も、判断力も素晴らしい。長屋の住民に知られたら、きっと怒鳴り込まれるに違いない。鳩にエサをやることすら禁止されているのだから。もっとも、男は鳩にエサをやったことは一度もない。規約はしっかり遵守している。

2022年、今年の夏はやたら暑かった。関東で猛暑の地と言え、天気予報では埼玉県熊谷市が毎日のように取り上げられる。男の鉄筋長屋は、その熊谷市に、車で30分ほどの距離にある。熊谷市が関東で1、2を争うほど暑くて、男の住む長屋が涼しいはずがない。それでも鳩は、クーラーもない中、毎日、台車を日よけに卵を抱き続けた。この暑さでは、雛はかえらないのではないかと、毎朝、巣をのぞいていたら、教科書通りに、ほぼ3週間で雛がかえった。猛暑の中、24時間、夫婦は交代で卵を抱き続けた。あっぱれである。

親指ほどの大きさで丸裸の雛が、二羽、親鳥の羽の下に見える。暑いので、抱き続けずに出したり入れたりしているのであろう。また、カラスなどの外敵から、雛を守るためであろう、抱卵から巣立ちまで、親鳥はベランダに一度も糞を落とさなかった。男とその女房殿にとっては、これは非常に助かった。雛の成長は驚くほど速く、親指ほどの雛が、約1か月で親と同じサイズに成長した。ツバメや雀のように、虫などのエサを運んでくるのではなく、話に聞いていたが、鳩の子育ては鳩ミルクのようで、口移しで与えていた。9月の中旬、抱卵から、2か月を待たず幼鳥の巣離れがあり、確認した直後に、女房殿が巣の後をきれいに掃除して、台車を取り去り、ベランダの景色を変えた。

男は古くなった黒い靴下に新聞紙を詰め込んで、カラスのような形を作って黒い糸でベランダにぶら下げた。今朝のことである。風に吹かれて揺れているが、賢い鳩の夫婦のこと、効果のほどは未だ分からない。

## エピローグ

志賀直哉の作品に「山鳩」という短編小説がある。「著者が山荘に滞在しているとき、山荘の前に広がる谷間を、二羽の山鳩が毎日のように飛び交うのが見えた。ある日、猟銃を持った友人が訪ねてきて、談笑したが、それからあと山鳩は一羽で飛ぶようになった。」

若いころ、簡潔で映像が目に浮かぶ志賀直哉の短編小説が好きだった。志賀直哉が逝去した日のことを、今でもよく覚えている。そのころ男の所属する学会誌「油化学」では、諸外国（英文誌）の論文要旨を若手が翻訳して掲載していた。恩師の指導で、男も翻訳を担当することになり、初めて(社)日本油化学会から原稿料をもらったのがその日だった。1971年10月21日のこと。原稿料

は160円ほどだったと記憶している。

令和4年(2022) 9月9日

追伸：加藤さんのHP開設20周年を祝します。おめでとう。

#### 【島崎弘幸 著書紹介】

- 40歳からはじめる健康学：知っておきたい栄養の話 島崎弘幸 著 (平凡社 2012.12)  
過酸化脂質・フリーラジカル実験法 五十嵐脩, 島崎弘幸 編著 (学会出版センター 1995.1)  
抗酸化物質：フリーラジカルと生体防御 二木鋭雄 ほか編著 (学会出版センター 1994.6)  
活性酸素：化学・生物学・医学 二木鋭雄, 島崎弘幸 編 (医歯薬 1994.7)  
油脂の栄養と疾病 島崎弘幸, 町田芳章 編 (幸書房 1990.1)  
活性酸素：化学・生物学・医学 二木鋭雄, 島崎弘幸 編 (医歯薬 1987.7)



元栄養学教授のコラム〔島崎弘幸〕TOPへ



HOME PAGEへ